

科目区分	研究科目		
授業科目名	臨床腫瘍学		
担当者名	柴田 浩行	配当年次	2, 3年次
単位数	15単位(選択)	実施場所	実験室
授業形態	実験実習		
開講曜日・時間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します		
授業の概要・到達目標 授業の目的: 新たな創薬の方向性を探索する実験を行い、臨床応用を目指したトランスレーショナル研究への展開を学ぶ。 授業の到達目標: 作成した論文を学術論文誌に公表後、学位審査を経て、学位取得を目標とする。 授業の概要: 以下の学習、実習を通じて、がん分子標的治療に関する研究を行う。 1. 分子標的薬の作用メカニズムを通じて、がん細胞の生物学的特性を理解する。 2. シグナル伝達系分子のキナーゼ活性阻害、転写因子群の転写活性化阻害、アポトーシス誘導活性、転移・浸潤活性阻害、血管新生阻害活性などについて、新規抗腫瘍性化合物の評価を行う。 3. 担がんモデル動物を用いて、上記化合物のin vivoでの評価を行う。 上記の研究に使用する新規抗腫瘍性化合物は、研究室で開発されたものであり、非常に独創性の高い研究を展開することが可能である。			
問い合わせ先(氏名, メールアドレス等) 柴田 浩行, hiroyuki@med.akita-u.ac.jp			
その他特記事項 履修に関する情報: 社会人大学院生など、勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。 教科書・参考文献: デヴィータ「がんの分子生物学」 自学自習時間における学習内容: 到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。			

科目区分	研究科目		
授業科目名	地域がん医療学		
担当者名	柴田浩行	配当年次	2, 3年次
単位数	15単位(選択)	実施場所	研究室
授業形態	実験実習		
開講曜日・時間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します		
授業の概要・到達目標 授業の概要: 秋田県のがん医療の実情を調査し、その問題点を抽出、解決策を提案する。 授業の到達目標: フィールドワークをもとに研究論文を作成し、英文学術誌に公表する。医学博士を取得することを目標とする。 授業の概要: 1. 秋田県のがん医療が抱える問題点の抽出 2. 現状分析のための手法の習得 3. 問題解決のための方法論の提唱、介入研究 4. 研究成果の英文論文文化			
問い合わせ先(氏名, メールアドレス等) 柴田浩行 hiroyuki@med.akita-u.ac.jp			
その他特記事項 社会人大学院生など勤務が履修の妨げになる場合は日程の調整に応じます。 教科書・参考文献: 必要に応じて指定する。 自学自習時間における学習内容: 到達目標に応じた準備学習を行う。			